

# 三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト実践業務仕様書

## （適用範囲）

**第1条** 本仕様書は、安城市（以下、「本市」という。）が実施する「三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト実践業務（以下、「本業務」という。）」に適用する。

## （目的）

**第2条** 安城市では、第三次安城市都市計画マスタープランにおいて、持続可能な都市型社会を実現する都市運営を実践するべく、ハード先行のコンパクトシティの形成に留まらず、まちをつかい、人の活動に合わせてまちをアップデートしていく新しい取組、「市民とともにつくり・つかう協創のまちづくり」を進めている。ここでは、まちの活動者となる広く地域住民が、まちでの楽しさ（自主性）、人や地域とのつながり（物語性）、他者との共存（多様性）を育みながら、自らが率先して「まちを知る」、「まちで遊ぶ」、「続けられる仲間とつながる」、「続けていく計画を立てる」、「続けていく資金を集める」、「高度なまちづくりに挑む」活動が行えるよう、「みんなで協力しながら、まちやまちのつかい方を創る」協創のまちづくりに着手している。

こうした協創のまちづくりを進めていく中で、まちびらきから30年以上経過した三河安城駅周辺は、都市型社会ならではの課題に直面している。定住者及び就労者は著しく増加しているにも関わらずまちに人の動きが見えない、土地区画整理事業で人が歩くことができる公共・民間空間を創出したにも関わらずその活用が見えない、そして使われずにまちが老朽化している、活動する人々のニーズに合った都市機能（商業、医療、教育等）が立地していない、この4点が都市運営上の大きな課題と捉えているところである。

三河安城駅周辺におけるこれらの課題を、ハード整備のきっかけと捉えず、まちづくりとして本来あるべき「人の活動が見えるまち」に変える（みんなでまちをつかって、三河安城駅周辺をパワーアップさせ、新たなまちに再生していく）きっかけと捉え、「まちをつかってつくる」新しいまちづくりのモデルとして、昨年度から実験的に進めているものである。

このプロジェクトの進め方は、まちをつかうことを念頭に、2つの行動を軸とするものと想定している。1つ目が「対話」である。これは、昨年度民間の活動団体間で組成された「つかう.meet」を「対話を行うしくみ」と考え、ここで行うざっくばらんな話し合いの中で、まちで行いたいこと、みんなでやりたいこと、まちでできるビジネスなど、試したい活動とその仮説が見える化していくことを期待するものである。そして2つ目が「活動（以下、本仕様書では「社会実験」という。）」である。これは、仮説ある活動を公共空間で行いやすくする「マチナカプレイスメイキング」を「自ら社会実験を行うしくみ」と考え、この制度を活用した個別活動での話し合いや「つかう.meet」での対話により見える化した「試したい活動」や「仮説の確からしさ」を、公共的空間をつかって「自ら検証していく」取組を想定している。

こうした「対話」と「社会実験」を重ねていく「まちをつかってつくる」取組は、昨年度から三河安城において地元関係者を巻き込みながら実践しており、国土交通省に「新しいまちづくりのモデル都市」として選定されるなど、「つかってつくる」実直な姿勢が評価され、注目を集めている。

しかし、こうした多くの人と関わり合いながら進めるまちづくりを実践するにあたって大きな影を落

としているのが、昨年度4月に緊急事態宣言に至ったコロナウィルスの感染拡大である。今後ワクチン接種等による効果が期待されるが、変異種などの発生も含め、継続的に新しい生活様式への配慮や、感染リスクで懸念されるまちづくり活動への参画意欲減退等の懸念について、ウィズコロナ社会における新しい協創のまちづくりの取組方策として、実践をもって検討していかなければならないと考えている。

以上より、本業務の目的は、まちびらきから30年以上が経過する三河安城駅周辺において、人の活動を豊かにする取組である三河安城パワーアップ再生プロジェクトを進めることを目的とし、ウィズコロナ期における新しい「協創のまちづくり」の進め方について実践を通じ再構築するため、「対話」を行う「つかう.meet の運営支援」、「社会実験」を行う「マチナカプレイスメイキングの運営支援」と業務とする。

## （用語の説明）

**第3条** 本業務で使用する用語を下記のとおり説明する。

### （1）つかう.meet

三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを進めるにあたって軸となる行動主体の一つであり、令和2年9月に活動者の発意で結成された組織。「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」、「三河安城まちかどネットワーク link」、「特定非営利活動法人 Mieru-Da Project」、安城市役所有志及び三河安城駅周辺の有志で構成される。

つかう.meet は、三河安城駅周辺でマチナカプレイスメイキングに取り組む活動者（以下、「つかう.meet プレイヤー」）、組織の運営者（以下、「つかう.meet 運営者」という。）を中心とする組織として活動していくことを想定し、その活動は会議、活動者における共同活動（（3）つかう.meet 主体の社会実験）である。

ここで、活動のうち「会議」とは、つかう.meet プレイヤーがもつまちへの考え方・思いを見える化し、相互につながる機会、新たな気づきを共有する機会、コラボレーション活動へとつながる機会、まちに必要な機能を検討する機会として機能することを期待する。この運営は、現在一定の形式によらないざくばらんな会議形態であるが、今後はこの継続に加え、後述する共同活動（つかう.meet プレイヤー相互の人間関係の構築に際し、まちでの共同活動（芝張りやベンチづくりなどを想定））などの実施も視野に入れる。

つかう.meet 運営者は、「会議」の開催にあたって、「まちへの考え方・思い」をまとめるため、必要に応じ、その時々課題に見合う専門家を招聘し、開催の目的が果たされるよう運営していくことも検討する。

### （2）マチナカプレイスメイキング（個々のプレイヤーを対象とする社会実験制度）

昨年度より都市計画課で実験的に実施する、マチナカ拠点区域の公共空間を対象とする公共空間の活用促進にかかる制度である。市民とともにづくり・つかう協創のまちづくり推進を目的とし、協創のまちづくりの推進にあっては、「民間まちづくり活動を引き出すべく、課題解決に向けた実験的取組を積み重ねる活動機会の創出を支援するもの」として運用している。マチナカの公共空間の活用ポテンシャルを図る社会実験として位置づける制度であり、「協創のまちづくりを実践し、浸透させること」、「まちのつかい方を蓄積し、まちの可能性（仮説と結果）を把握すること」、「まちのつかえる機会を増やし、まちをつかう担い手を育成すること」を目標としている。

本制度の運用は、自分たちで考え、自分たちの手でまちづくりにつながる活動であることが前提であり、市はその活動自体に積極的に関与しない。本制度における安城市の果たすべき役割は、「活動できる場所がないときに、マチナカの公共空間を一緒に探す」、「何をしたいかまとまらないときに、その内容がまとまるよう専門家を派遣する」人的な支援を行うものであり、自分たちで考え、自分たちの手でまちづくりにつながる活動を行うための伴走支援に限る。

マチナカプレイスメイキングは、大きく4のステップで進行し、先に示す制度の支援については①から②へ発展する際に人的支援を行うものとする。さらに、本制度を三河安城駅周辺で活用する主体（ここでは「プレイヤー」という。）は、つかう.meetの構成プレイヤーとして参加を期待し、行政としてその参加を促すこととする。

- ① 活動動機の見える化…マチナカ拠点区域の公共空間で活動を希望する活動者が、公共空間活用の目的、およその活動内容を明らかにし、これらをまとめたものを企画提案書として市に提出する。
- ② 目的や取組の見える化…公共空間のつかい方（活用目的、用途、期間、対象者、仮説など）を明確にし、これらをまとめたものをつかうプランとして市に提出する。この目的や取り組みの見える化に際し、「活動できる場所がない」場合にマチナカの公共空間を一緒に探し、「何をしたいかまとまらない」場合に内容がまとまるよう専門家を派遣する（キョウソウミーティング）を行うものとする。本取組については、活動主体はSNSで発信を行い、自身の活動、マチナカプレイスメイキング、協創のまちづくりについて広く情報発信してもらう。
- ③ 活動の見える化…活動動機、目的や取組の見える化により、実際に自分達の力で活動してみるものである。本取組については、活動主体はSNSで発信を行い、自身の活動、マチナカプレイスメイキング、協創のまちづくりについて広く情報発信してもらう。
- ④ 可能性の見える化…活動の見える化により実際に自分達の力で活動した結果と、活動を設定した仮説との関係性を探るものであり、まちをつかって得た結果をつかったレポートとしてまとめ、市に提出する。本取組については、活動主体はSNSで発信を行い、自身の活動、マチナカプレイスメイキング、協創のまちづくりについて広く情報発信してもらう。

事務局は、マチナカプレイスメイキングにおいて、紆余曲折も経ながら「まちでできる活動とその結果」が活動を通じて見える化できるよう、伴走的な協力を行うことを想定する。なお、ここでの伴走的な協力は、「まちでできる活動」の見える化にあたっては、「三河安城駅周辺での活動の舞台となる公共空間の提供ができるよう調整すること（行政との調整事項）」、「その際に必要な手続き資料（利用目的、用途、期間、対象者、仮説などが明らかなもの。）の作成支援を行うこと（ただし、Googleフォームでの申請となるため、相互に内容確認を行うため、作業内容としては情報の不足等を確認し、不足あれば通知／指示を行う作業レベルを想定する）」の2つ想定し、全般において社会実験に見合う専門家を社会実験のコーディネーターとして招聘することを想定する。

ただし、本活動は活動主体の自主性を育む側面も有するため、つかう.meet運営者としては、気づきを促すこと、つながりを生み出すことに注力する。

### （3）つかう.meet 主体の社会実験

三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトを進めるにあたって軸となる行動の1つと考えるもの。つかう.meetプレイヤーを活動主体として、つかう.meetや見える化されるであろう「まちへ

の考え方・思い」である「まちをつかう仮説」、「仮説に基づくまちのつかい方」、「仮説の検証方法」に基づき、その仮説の検証をつかう。meet プレイヤー自らの力によりマチナカで活動することを想定し、「まちでできる活動」と「その結果」と見える化する行動である。

当該社会実験で見える化する「まちでできる活動」とは、つかう。meet で考えた「まちをつかう仮説（ターゲット）」から「つかう。meet プレイヤー」が見出した、「社会実験に向けた準備」に基づく「仮説に基づくまちのつかい方」を実践することである。そして、「活動の結果」とは、社会実験として行う「まちでできる活動」を、つかう。meet で考えた「仮説の検証方法」により、活動の成果（売上、参加者数）、「まちをつかう仮説（ターゲット）」と「仮説に基づくまちのつかい方」の関係の確かさ、「社会実験に向けた準備」とこれを行う「つかう。meet プレイヤー」の相性等を図るデータを取得することである。

### （三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクト実践業務の業務内容及び提案事項）

**第4条** 本業務は、まちびらきから30年以上が経過する三河安城駅周辺において、ウィズコロナ期における新しい「協創のまちづくり」の進め方について実践を通じ再構築するため、「対話」を行う「つかう。meet の運営支援」、「社会実験」を行う「マチナカプレイスメイキングの運営支援」を行うものである。業務内容は次の各号に掲げるものとし、本仕様書記載の本市が示す例に留まらず創意工夫をもって業務を遂行することとする。

なお、内容は想定であり、活動や対話の進行状況により、提案を受けた内容を変更する必要がある場合が想定される。その場合、変更した内容により対応するものとするが、基本的に契約変更の対象とはしない。

#### （1）計画準備となる三河安城マチナカ協創地区の課題整理

円滑な業務遂行のため、本業務の目的・業務内容を十分把握した上で、作業体制、作業工程等について検討・立案し業務実施計画書としてとりまとめを行う。業務計画書は業務着手時の打合せで提出し、監督員の了承を得るものとする。

なお、本業務は、三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画（ウォークブル推進事業）を上位計画とするものであり、本計画の趣旨及び過年度における取組成果を踏まえて、民間の活動者と積極的に意思疎通を行い行うものとする。

なお、本号に関して業務提案書で提案をいただきたい項目は下記のとおりである。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>• 三河安城マチナカ協創地区における課題</li><li>• 三河安城マチナカ協創地区における課題解決上有すべき視点</li><li>• まちづくりの進め方の基本的な考え方</li><li>• (2)～(4)の行動ゴールを考慮した、戦術と戦略を織り交ぜたスケジュール。</li></ul> |
|--|

#### （2）マチナカプレイスメイキングの運営管理

昨年度から運用を開始しているマチナカプレイスメイキング制度の運営管理、今後三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトの実施事務局（受託業者）が取りまとめを行う社会実験の実施方法への課題出しを行う。なお、(ア)については、業務期間中継続して行うものとするが、(イ)の整理については、概ね1月までの情報によって整理することを想定する。

本節は、マチナカプレイスメイキングにおいて、プレイヤー数の向上を目標とする業務であり、その行動ゴールを、①意欲あるプレイヤーを発掘する、②小さな社会実験（プレイヤーによるまちの活動）が始まる、③活動が繰り返される、④意欲あるプレイヤー、オーディエンスをさらに獲得する、の4点と仮定する。

なお、本号に関して業務提案書で提案をいただきたい項目は下記のとおりであり、上記で仮定する行動ゴールは、別の方向性を提案しても差し支えない。

- ・三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画の計画期間内における、マチナカプレイスメイキングのコーディネートに関する取組の基本的な考え方。
- ・上記における、本号の取組に関する課題、今年度の目標、設定すべき行動ゴール。
- ・(ア) ①マチナカプレイスメイキングの手続き更新に関する提案。
- ・(ア) ②マチナカプレイスメイキングの運営に関する提案。
- ・(ア) ③マチナカプレイスメイキングのコーディネーター発掘に関する提案。
- ・(ア) ④制度の発信とプレイヤーの意欲向上につながる取組の検討
- ・マチナカプレイスメイキングの運営管理のスケジュール（月単位）。

#### (ア) マチナカプレイスメイキングの運営管理

本項の業務は下記の4種である。同制度は、都市計画課が窓口として対応するものであるが、都市計画課と窓口業務を共同で取り組むものとし、下記の対応を中心に、柔軟に運営管理を行う。なお、本対応については、必ずしも対面にこだわらず、キョウソウミーティングにおいてはウェブミーティング対応も問題ない。

- ① **マチナカプレイスメイキングの手続き更新**…必要に応じ、マチナカプレイスメイキングの手続き更新を行う。概ね2カ月に1度チェックを行い、活用実態に合わせた運用の最適化を図る。
- ② **マチナカプレイスメイキングの運営**…制度の運営を行う。2カ月に一度制度運営を振り返る機会を設け、必要に応じて、手続きの更新に向けた整理を行う。
  - マチナカプレイスメイキングでの事前打ち合わせ
  - キョウソウミーティング（活動内容を明確化させる専門家派遣）
  - 申請資料（つかうプラン）確認
  - 社会実験の実施
  - 社会実験の実施による効果測定支援（例えば交通量、来訪者数などを想定）
  - 活動のふりかえり（つかったレポート）
- ③ **マチナカプレイスメイキングのコーディネーター発掘**…キョウソウミーティングで派遣する専門家については、その活動内容に応じ、ミーティング上最適と考えられる人材を幅広く発掘することに努めることとする。さらに、今後三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトでのキョウソウミーティング、つかう.meet でも会の進行などをサポートする「ファシリテーター」として継続的に本地域と関係し続けられるよう努めることとする。

なお、内容に応じ、受託業者が専門家としてキョウソウミーティングに参加することは問題ない。

- ④ 制度の発信とプレイヤーの意欲向上につながる取組の検討…成功体験型イベント（活動のワード）などの企画検討を行う。

(イ) 翌年度以降の制度継続に向けた課題出し

(ア) の実践に当たって、下記の整理を中心に、三河安城パワーアップ再生プロジェクトで「社会実験の取りまとめ」を進めていく上での課題出しを行い、より効率的・効果的・継続的な制度運営が実現できるよう、制度のアップデート検討を行う。

- ① マチナカプレイスメイキングの申請方法
- ② 同制度の公共空間の使用料に関する整理の更新
- ③ 同制度の公共空間の利用期間に関する整理の更新
- ④ 同制度の公共空間の利用状況の共有方法に関する整理の更新
- ⑤ 同制度の実施主体の選定に関する整理の更新
- ⑥ 同制度の実施主体がまとめる仮説の例示
- ⑦ キョウソウミーティングでファシリテーターとして必要とされる専門分野とその専門家
- ⑧ その他必要な事項

(3) 会議体としての「つかう.meet」の運営管理

つかう.meet 運営者として、「つかう.meet」の実施・運営管理、翌年度以降の運営方針設定に向けた課題出しを行う。なお、(ア)については、業務期間中継続して行うものとするが、(イ)の整理については、概ね1月までの情報によって整理することを想定する。なお、今後のつかう.meetにおいて使用する可能性がある椅子、机、タブレットスタンド等の備品については、つかう.meetプレイヤーが保有するものを活用するが、必要に応じて本業務内で調達することとする。

つかう.meetではミーティングでのテーマに応じ、最適と考えられる人材を幅広く派遣することとし、テーマに応じて受注者以外からの派遣も検討する。

本節は、つかう.meetにおいて、キーパーソンとなる活動者の育成（もしくは活動者相互のつながり強化）を目標とする業務であり、その行動ゴールを、①プレイヤーがお互いを知る、②プレイヤーがお互いに活動をつなげあい、一緒に活動する、③メンバー間の活動が繰り返される、④核となるプレイヤー、(波及効果として新たなプレイヤーとなりうる) オーディエンスを獲得する、の4点と設定する。

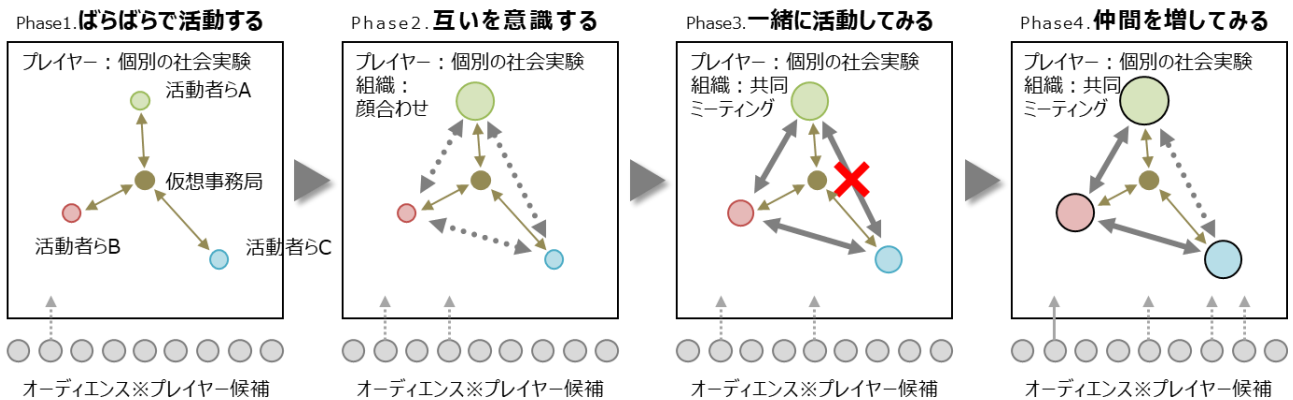


図 各フェーズにおける、活動者相互の関係性（イメージ）

なお、本号に関して業務提案書で提案をいただきたい項目は下記のとおりであり、上記で仮定する行動ゴールは、別の方向性を提案しても差し支えない。

- 三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画の計画期間内における、つかう.meet の育成に関する基本的な考え方。ただし、(3)と総合した考え方でもよい。
- 三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画の計画期間内における、つかう.meet の会議運営・コーディネートに関する取組の基本的な考え方。
- 上記における、本号の取組に関する課題、今年度の目標、設定すべき行動ゴール。
- (ア) ①「プレイヤーのつながりづくり、核づくり」を行う、つかう.meet の開催に関する提案。
- (ア) ②話題提供や共同活動を促すコーディネーター発掘に関する提案。
- (ア) ③核となるプレイヤーをつくる、つかう.meet の効果的な開催運営に関する提案。
- 今年度における、現実的なつかう.meet の運営管理のスケジュール（会議単位）。

### (ア) つかう.meet の会議運営管理

本項の業務は下記の3種である。

- ① 「プレイヤーのつながりづくり、核づくり」を行う、つかう.meet の開催…プレイヤーがお互いを知り、お互いに活動をつなげあい、一緒に活動する機会として、昨年度に設置されたつながるプラットフォーム「つかう.meet」の定期開催を支援する。開催は毎月第4金曜日（ただし、祝日の場合は前後の金曜日とする）に三河安城ツインパークにて開催する。
  - 開催前の事前打ち合わせ（ミーティング趣旨、行動ゴール設定、内容や人員の構成、話題提供）
  - つかう.meet プレイヤーへの宿題提供（活動報告や話題提供資料の収集）
  - つかう.meet 資料の作成（前述宿題のとりまとめ含む。規定の様式に従う）
  - つかう.meet 開催の発信（SNS）
  - 会場設営（椅子、テーブル、プロジェクタ、スクリーン、菓子等の軽食）の準備。ただし、つかう.meet プレイヤーとの共同活動を前提とする。
  - ミーティングのファシリテート（事前打ち合わせに基づく。ただし、活動報告の取り回しは、つかう.meet プレイヤーが担当することとする）
  - ミーティング結果の配信
- ② 話題提供や共同活動を促すコーディネーター発掘…つかう.meet では、「プレイヤーがお互いに活動をつなげあい、一緒に活動する」組織フェーズに移行できるよう、状況に応じて話題提供や共同活動などを企画する。こうした企画において、つかう.meet 運営者ではカバーできない領域に関しては、キョウソウミーティング同様、その目的に見合った専門家を招聘する。さらに、今後三河安城駅周辺パワーアップ再生プロジェクトでのキョウソウミーティング、つかう.meet でも会の進行などをサポートする「ファシリテーター」としても継続的に本地域と関係し続けられるよう努めることとする。
- ③ 核となるプレイヤーをつくる、つかう.meet の効果的な開催運営…「核となるプレイヤー、オーディエンスを獲得できる」組織フェーズに移行できるよう、地域のイベント、地元企業のリニューアルオープン、1年間の成果報告などの開催に向けた意思共有を図り、地域の節目を活用して「つかう.meet」を成長させられるよう運営を行うものとする。

これは①で定める定例のつかう.meet に付加価値（例えば、地域のイベントに向け意識を高めるプレイベントの開催、リニューアルオープンされた公共的空間を活用したつかう.meet の開催とつかう.meet プレイヤーによる社会実験の同時開催、スポーツのPVといった集客装置とセットにした1年間の活動報告ミーティング、共同体験と新しいつかえる公共空間づくりを兼ねた芝生養生体験）をつける開催として検討し、期間内に3回程度を想定する。なお、後述の（4）（ア）②に向けた意思共有を図る目的で取り組むもので、当該活動の実務については（4）（ア）②で行うものとする。（「核となるプレイヤーづくり」に主眼をおくものと理解し実施する。）

#### （イ）「つかう.meet の継続試行」に関する課題出し

（ア）の実践に当たって、下記の整理を中心に、継続的につかう.meet の運営を行うための課題出しを行い、より効率的・効果的・継続的な運営が実現できるよう、つかう.meet 運営方法のアップデートを行う。

- ① ウィズコロナにおけるつかう.meet の実施方法
- ② 同取組における必要な準備の整理
- ③ 同取組における必要なタイムスケジュール（準備期間含む）
- ④ 同取組でファシリテーターとして必要とされる専門分野とその専門家
- ⑤ その他必要な事項

#### （4）つかう.meet 主体の社会実験支援

つかう.meet 主体で行う社会実験の運営、次年度以降における当該活動実施に向けた課題出しを行う。なお、（ア）については、業務期間中継続して行うものとするが、（イ）の整理については、概ね1月までの情報によって整理することを想定する。

なお、本節は、つかう.meet において、将来的にプレイヤーやターゲットになりうるオーディエンスの獲得を目標とする業務であり、その行動ゴールを、①マチナカプレイスメイキングでオーディエンスを増やす、②つかう.meet でオーディエンスを増やす、③つかう.meet 関連イベント（つかう.meet と並行開催する個別の社会実験）でオーディエンスを増やす、④意欲あるプレイヤー、オーディエンスをさらに獲得する、の4点と設定する。

なお、本号に関して業務提案書で提案をいただきたい項目は下記のとおりであり、上記で仮定する行動ゴールは、別の方向性を提案しても差し支えない。

- 三河安城マチナカ協創地区都市再生整備計画の計画期間内における、つかう.meet のコーディネートに関する取組の基本的な考え方。
- 上記における、本号の取組に関する今年度の目標、設定すべき行動ゴール。
- （ア）①オーディエンスづくりのためのつかう.meet 関連イベントに関する提案。
- （ア）②オーディエンスを獲得する、つかう.meet 主体の社会実験の開催に関する提案。
- 今年度における、現実的なつかう.meet の共同活動に関するスケジュール（社会実験単位）

#### （ア）オーディエンスの効果的な獲得

本項の業務は下記の2種である。

- ① オーディエンスづくりのためのつかう.meet 関連イベント…つかう.meet と同時並行で開催



する個別の社会実験が開催されるよう誘導を行う。本業務で想定する併設イベントは、つかう.meet プレイヤーによる出店のほか、(2)(ア)②の話題提供などで、三河安城パワーアップ再生プロジェクトに必要な活動、参画意欲のある活動などを参画させていくなど、つかう.meet での議論に応じ、柔軟につなげていく。なお、当該取組は、つかう.meet 主体の社会実験であり、(2)(ア)②同様の下記6点について、つかう.meet で相談(メール等で可)の上、つかう.meet 運営者が実施することとする。ただし、つかう.meet プレイヤーが出店対象となる場合は、同プレイヤーが申請実務を行うよう促すこととする。

- キョウソウミーティング実施(前回のつかう.meet 及びメール等でのやりとりによる。活動の設定を行う)
- つかうプラン作成
- つかう.meet のファシリテート(専門家派遣の効果分析)
- 社会実験の実施
- 社会実験の実施による効果測定支援(例えば交通量、来訪者数などを想定)
- つかったレポート作成(活動のふりかえり)

- ② **オーディエンスを獲得する、つかう.meet 主体の社会実験の開催**…(2)(ア)における検討を前提に、地域のイベント、地元企業のリニューアルオープン、1年間の成果報告などを開催し、つかう.meet の開催や地域の節目を活用してオーディエンスを獲得できるようつかう.meet 主体の社会実験の運営を行うものとする。なお、当該取組におけるつかう.meet 運営者の実務については、(3)(ア)③同様とする。

#### (イ)「つかう.meet 主体の社会実験の継続試行」に関する課題出し

(ア)の実践に当たって、下記の整理を中心に、三河安城パワーアップ再生プロジェクトで「社会実験の取りまとめ」を進めていく上での課題だしを行い、より効率的・効果的・継続的な事務局運営が実現できるよう、社会実験の実施方法(本節でのつかう.meet 主体の社会実験)のアップデートを行う。

- ① つかう.meet 主体の社会実験実施に係る関係機関協議と申請方法
- ② 同取組の公共空間の使用料に関する整理
- ③ 同取組の公共空間の利用期間に関する整理
- ④ 同取組の公共空間の利用状況の共有方法に関する整理
- ⑤ 同取組の実施主体の選定に関する整理
- ⑥ 同取組の実施主体がまとめる仮説の例示
- ⑦ つかう.meet でファシリテーターとして必要とされる専門分野とその専門家
- ⑧ その他必要な事項

#### (5) とりまとめ

(2)～(4)における課題出し内容を整理し、三河安城駅パワーアップ再生プロジェクトの継続実施に向けたとりまとめを行う。

#### (打合せ協議)

**第5条** 打合せは業務着手時、中間(6回)、成果品納入時の計8回を予定しているが、業務の進捗状況

に合わせ、必要に応じて適宜実施するものとする。

また、打合せ後は速やかに打合せ議事録を作成し、発注者に了承を得て、業務に手戻りが生じないようにする。

#### （関係資料の貸与）

**第6条** 発注者は、本業務の作業に必要と認められる関係資料及び関係図面を貸与するものとする。なお、関係資料は受注者が厳重に整理保管し、業務終了後直ちに返却するものとする。

#### （提出書類）

**第7条** 策定業務の着手及び完了にあたって、安城市の契約約款に定めるもののほか、次の書類を提出し承認を受けるものとする。また、提出書類は全て発注者の所有とし、発注者の承認を受けずに他に公表、貸与及び使用等をしてはならない。なお、本業務が完了した後においても、受注者の責めに帰すべき理由により成果品に不良箇所が発見された場合は、速やかに訂正、補足その他の措置を講ずるものとする。なお、これに要する経費は受注者が負担するものとする。

成果品の作成に当たっては、ARCGIS、OFFICE ソフトなどを用いる本市及び別途業務で活用可能なデータとして整理すること。

（1）業務着手届	1 式
（2）業務工程表	1 式
（3）業務完了届	1 式
（4）業務報告書	2 部
（5）上記電子データ	1 式
（6）その他監督員が必要と認めた資料	1 式

#### （管理技術者）

**第8条** 管理技術者は、本業務の履行にあたり、本市が実践する協創のまちづくりに類似した業務の実施経験者であり、日本語に堪能でなければならない。

2 管理技術者は、下記の業務実績をそれぞれ1件以上有していること。

- （1） 地方公共団体等より発注されたエリアマネジメントに係る業務実績
- （2） 地方公共団体等より都市計画マスタープランの策定に関する業務実績
- （3） 地方公共団体等より立地適正化計画の策定に関する業務実績

#### （担当技術者）

**第9条** 本業務における主たる担当者は、本業務の履行にあたり、業務目的にある「活動」や「対話」等のコーディネートに関する業務経験を有し、本市が実践する協創のまちづくりに類似した業務の実施経験者であり、日本語及びプレイスメイキングなどの「まちをつかう」取組に堪能でなければならない。

2 担当技術者は、地方公共団体等より発注されたエリアマネジメントに係る業務実績を1件以上有すること。

### **（照査技術者及び照査の実施）**

**第10条** 受注者は、成果物の技術上の照査を行う技術者を定め、発注者に通知するものとする。照査技術者は、照査計画書を作成し業務計画書に記載し、照査に関する事項を定めなければならない。

2 照査技術者は、技術士（建設部門（都市及び地方計画））の資格保有者であり、日本語に堪能でなければならない。

3 照査技術者は、下記の業務実績をそれぞれ1件以上有していること。

- （1） 地方公共団体等より発注されたエリアマネジメントに係る業務実績
- （2） 地方公共団体等より都市計画マスタープランの策定に関する業務実績
- （3） 地方公共団体等より立地適正化計画の策定に関する業務実績

### **（疑義）**

**第11条** 管理技術者は、本特記仕様書に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに本市監督員と協議して定めるものとする。